

横浜市梅毒届出状況(2024年1月～6月)

梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌による感染症です。感染者の皮膚粘膜病変からの浸出液などに接触することで、梅毒トレポネーマが粘膜や皮膚の小さな傷から侵入して感染します。主に性的接触により伝播する性感染症です。感染すると全身に様々な症状を引き起こし、適切な抗菌薬治療を受けなければ、深刻な健康上の影響が起り得ます。母体が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児にも感染し、流産、死産、先天梅毒などを起し得ます。梅毒は症例数が多いこと、治療に有効な抗菌薬があること、適切な抗菌薬治療により母子感染を防ぎ得ることなどの理由から、性感染症に関する特定感染症予防指針に基づき、公衆衛生上重点的に対策がすすめられています。

1999年4月から感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づく感染症発生動向調査の全数報告対象疾患となり、診断した医師は7日以内に管轄の保健所に届け出ることが義務付けられています。1999年の調査開始以降、2010年までは全国で500～900例程度の報告でしたが、2011年に増加に転じ、2019～2020年に一旦減少したものの、2021年以降再度増加に転じています。2022年には全国で10000人を超える患者が報告されました。この傾向は横浜市も同様で、2023年1月～12月の届出数は272件と、1999年4月以降で過去最高の届出数となりました。(図1)

こうした梅毒の届出数の急増を受け、2024年1月～6月の横浜市内の患者発生動向をまとめました。現状の把握、傾向を理解することで、今後より効果的な感染拡大防止策が行えるよう努めてまいります。

- 梅毒患者数男女別推移では、2024年1月～6月の期間に男性97件(59.9%)、女性65件(40.1%)、合計162件の報告がありました。昨年の同時期と比較して1.22倍の報告件数でした。

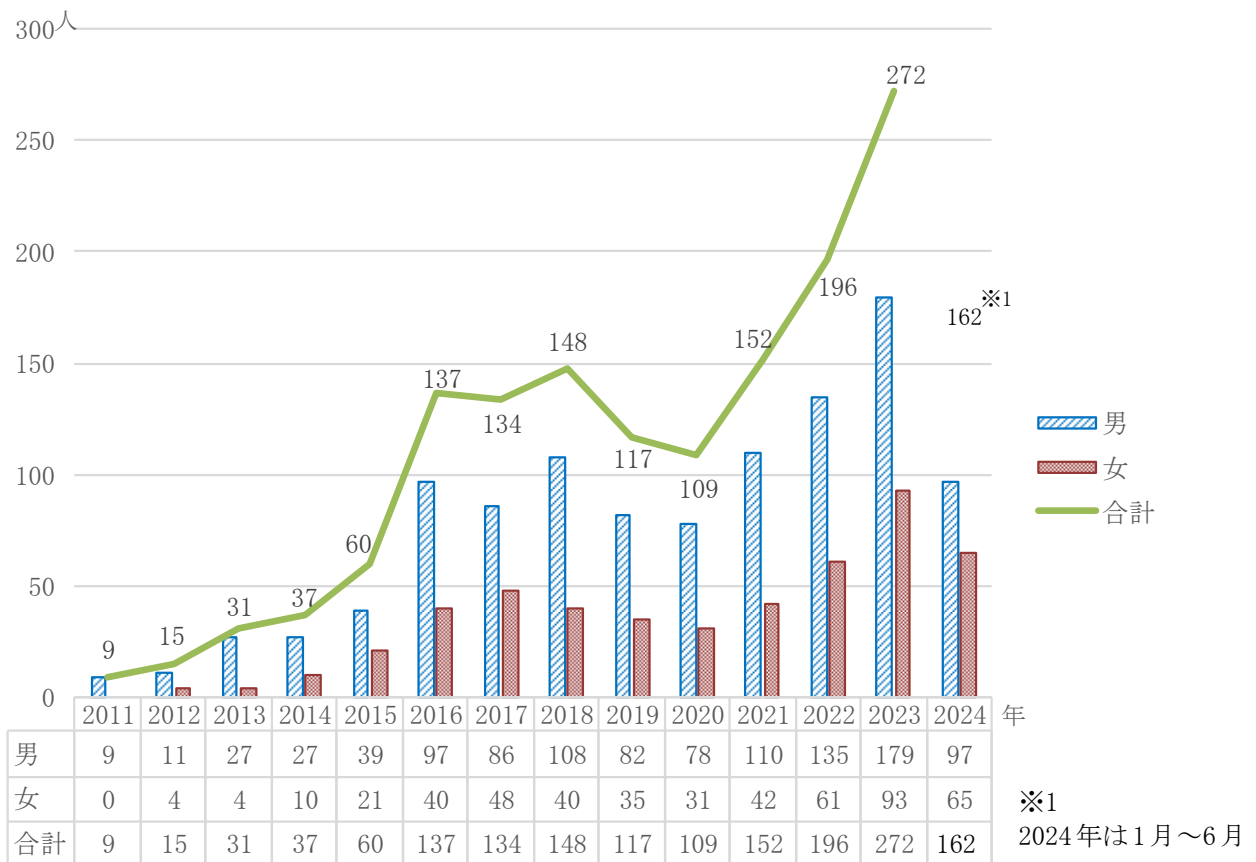


図1 横浜市内梅毒患者数の推移(2011年1月～2024年6月)

2. 男女別年齢区分別報告数では、20～50 歳代の報告が多く、男性は 20～50 歳代が多く 84.5%、女性は 20～30 歳代が多く 64.6%を占めています。(図 2)

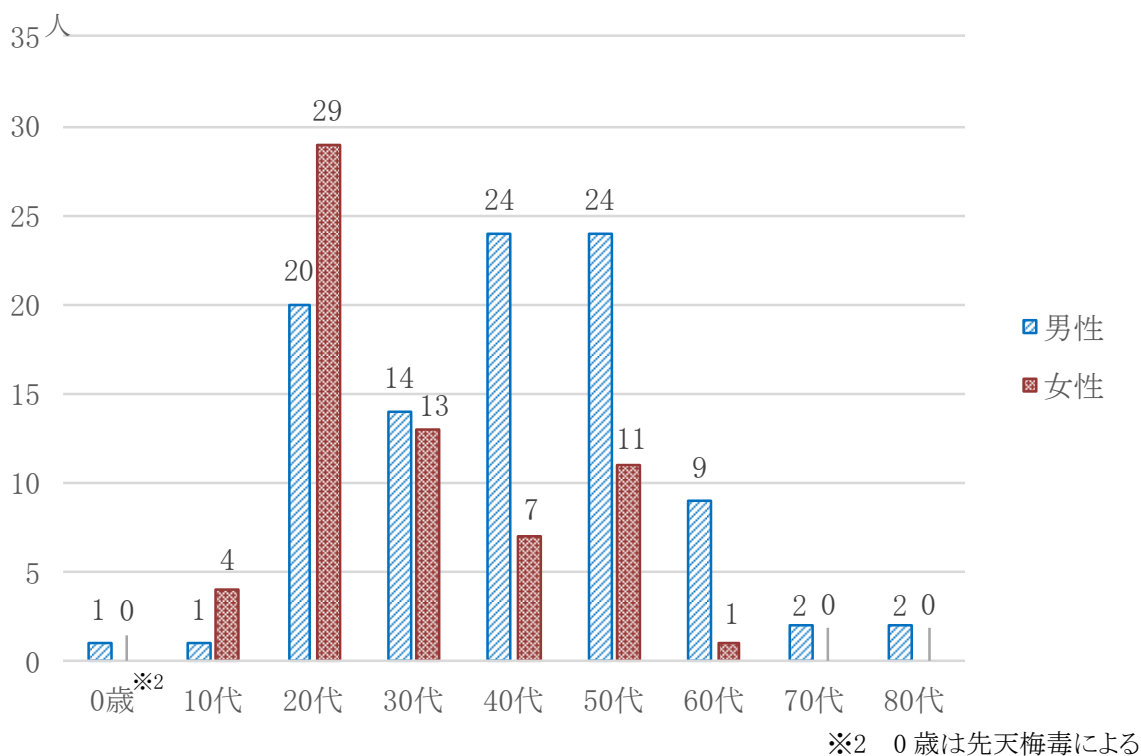


図 2 年代別性別患者数(2024 年 1 月～6 月)

3. 届出時の病型は、全体では早期顕症梅毒(Ⅰ期)が 41.4%と多くなっています。男女別割合でみると、男性は早期顕症梅毒(Ⅰ期)が多く 57.7%、女性は早期顕症梅毒(Ⅱ期)が多く 52.3%となっています。また、先天梅毒の報告は1件(0.6%)でした。(図 3)

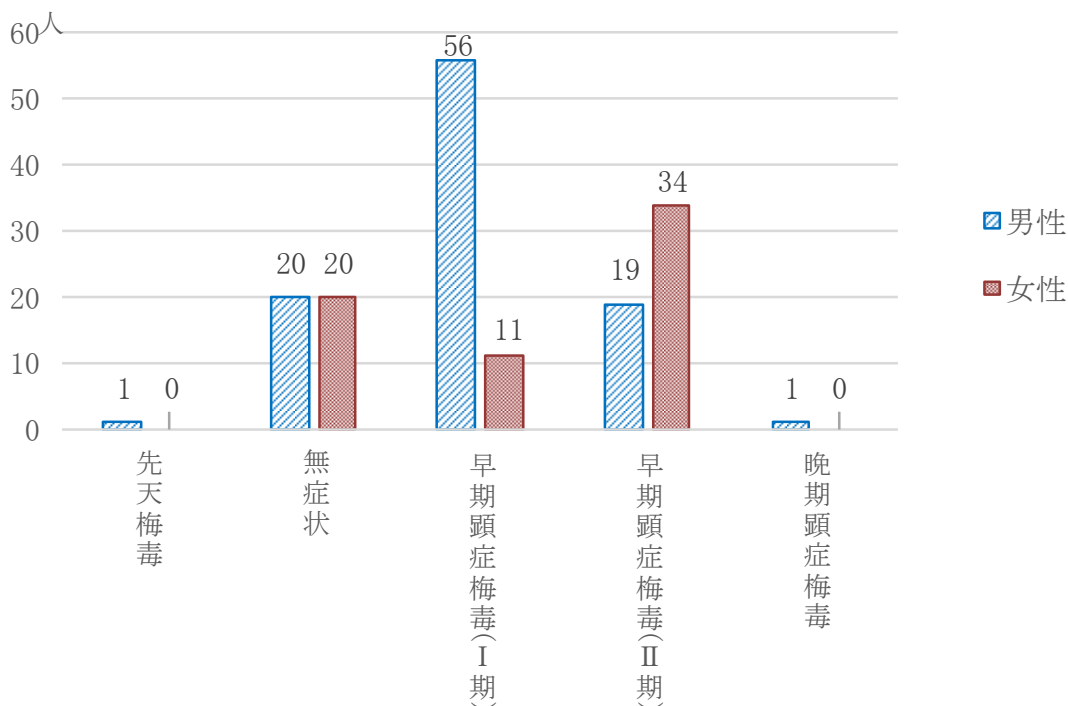


図 3 病型別^{※3}性別割合(2024 年 1 月～6 月)

※3 病型別臨床症状について

早期顕症梅毒（Ⅰ期）とは、感染後3週間程度経過し、梅毒トレポネーマの侵入部位に初期硬結、硬性下疳などの限局性の病変が出現した状態です。また、所属リンパ節の腫脹を伴うことがあります。これらの症状や所見は無痛性の場合が多く、約3～6週間で自然に軽快します。

早期顕症梅毒（Ⅱ期）とは、Ⅰ期の症状出現から4～10週間程度経過し、梅毒トレポネーマが血行性に全身へ移行することで、全身に多彩な症状が出現した状態です。手掌や手背、下腿、前腕、背部などを中心に、無痛性の紅斑を呈するバラ疹が特徴的です。また、丘疹性梅毒疹、粘膜疹、扁平コンジローマなどもあります。発熱や倦怠感、全身性のリンパ節腫脹に加え、消化器系、泌尿器系、筋骨格系の症状や所見を呈することがあります。Ⅰ期と同様に症状は自然に軽快します。

晩期顕症梅毒は、感染後数年～数十年経過後にゴム腫、大動脈瘤や大動脈弁逆流症などの心血管梅毒、脊髄癆や進行性麻痺などの晩期神経梅毒を呈した状態で、致命的となることがあります。抗菌薬の普及などから、現在では晩期顕性梅毒は稀であるといわれています。

先天梅毒は、梅毒に感染した母体から胎盤を介して胎児に梅毒トレポネーマが感染することにより生じ、妊娠週数に関わらず、母体のいずれの病期でも起こり得ます。早期先天梅毒は、出生後2年未満に肝腫大、黄疸、鼻汁、発疹、全身性のリンパ節腫脹や骨格異常などが現れます。晩期先天梅毒は、生後2年以降で、特徴的な顔貌や Hutchinson 3 徴候（Hutchinson 歯牙、感音難聴、実質性角膜炎）などを呈します。

4. 性風俗産業について

利用歴について、全体の24.7%、男性の39.2%に利用歴があると報告されています。利用歴不明若しくは記載のない届出が40.7%を占めています。（図4）

従事歴について、全体の17.3%、女性の40.0%に従事歴があると報告されています。従事歴不明若しくは記載のない届出が32.1%を占めています。（図5）

利用歴及び従事歴に関しては、実態が十分に把握できていない可能性があります。

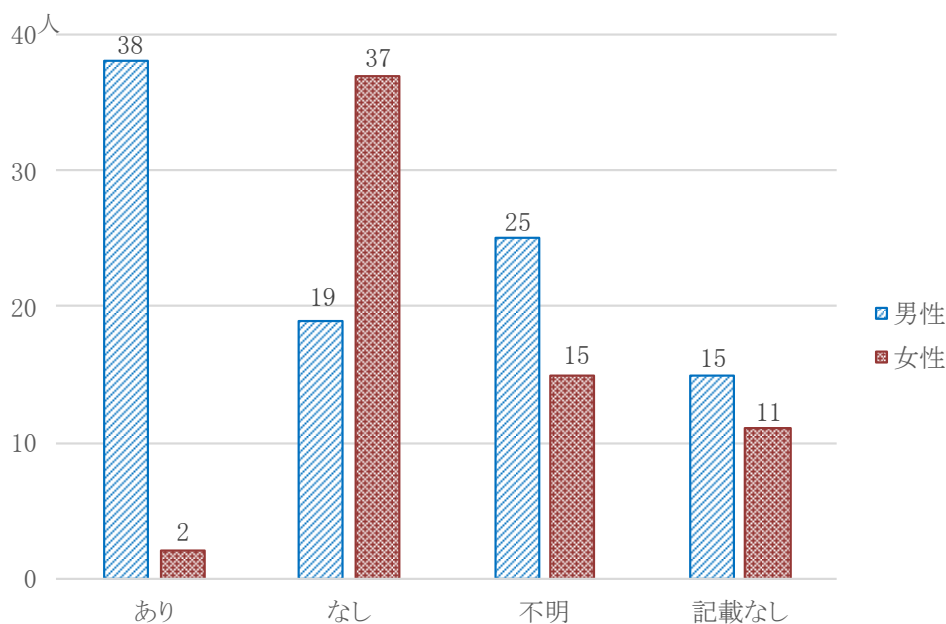


図4 性風俗産業利用歴(2024年1月～6月)

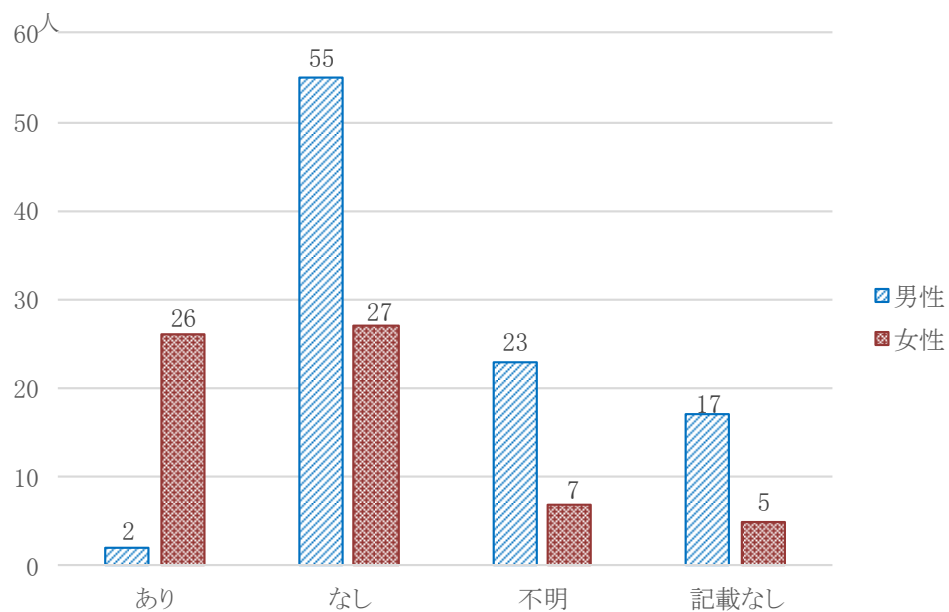


図5 性風俗産業従事歴(2024年1月～6月)

5. 妊娠の有無について、2024年1月～6月の妊婦の報告は2件でした。
 なお、2023年(1月～12月)の妊婦の報告は6件でした。

【 感染症・疫学情報課 】